

第 74 回 松江市域における気象観測と物産陳列所

島根県における気象観測の歴史は、明治 26 年（1893）、浜田測候所の開設に始まります。その浜田測候所管内における地点観測所として、現在の松江市域においては同じく明治 26 年、乃木村福富に初めて観測所が設けられました。それから明治 35 年（1902）に秋鹿村役場、明治 40 年（1907）に松江（殿町）と設けられた後、昭和 15 年（1940）に松江測候所（松江市西津田町。後の松江地方气象台）が完成し、観測が始まりました。その翌年の昭和 16 年（1941）7 月からは美保関・玉湯・恵曇でも観測が始まり、昭和 24 年（1949）には八束でも観測が始まっています。このように長い歴史を持つこれら観測所について、松江市史編纂事業における調査の中で、明治 26 年からの気象観測記録が残っていたことが分かりました。今回の調査で入手することのできた記録は、大きく分けて下記の 3 種類になります。

（1）松江地方气象台所蔵史料：計 44 冊かん

「管内気象月表」（明治 26 年〔1893〕～昭和 11 年〔1936〕）

（2）松江市所蔵史料：計 3 冊

「農商部統計気象」明治 35 年（1902）～明治 44 年（1911）

「統計」明治 45 年（1912）～大正 3 年（1914）

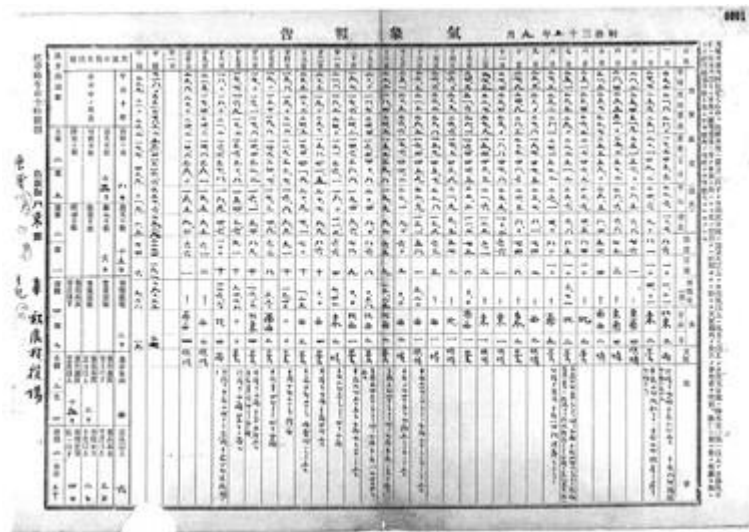
「統計」大正 4 年（1915）～大正 6 年（1917）

（3）気象庁所蔵データ（（一財）気象業務支援センターより CD-R で販売）：計 CD-R31 枚

「区内気象観測月原簿」昭和 15 年（1940）～昭和 53 年（1978）

「地上気象観測月表」昭和 15 年（1940）～昭和 54 年（1979）

このうち、(2)については、秋鹿村役場の文書なのですが、明治35年に役場に設置された観測所における「気象報告」で、浜田測候所に提出したものの控えであったと思われます。(2)には稟議印が押されているのに対し【写真1】、(1)の浜田測候所に残っていた気象報告(現在は松江地方気象台が所蔵)には秋鹿村役場の朱印が押され、朱書きでチェックや修正などもされています【写真2】。秋鹿村役場での観測記録は2部作成され、一つが稟議用、もう一つが本書として浜田測候所へ提出され、修正等が加えられた経緯もうかがうことができます。



左：【写真1】明治35年9月気象報告(秋鹿村役場)松江市所蔵、右：【写真2】明治35年9月気象報告(秋鹿村役場)松江地方気象台所蔵

それぞれの記録を基に、現在の松江市域における観測地点と観測年月をまとめたのが次の表になります。

[気象観測記録整理表 \(PDF149KB\)](#)

このうち、松江地方気象台で観測の始まった昭和 15 年（1940）7 月からの記録と、鹿島地区における昭和 51 年（1976）からの記録については、気象庁のホームページから閲覧できます。ただ、その他の地区については、上記の史料からしかうかがうことはできません。

平成 31 年度発刊予定の『松江市史』史料編 1「自然環境」には、松江市域の各観測所の歴史とともに貴重な観測記録も掲載する予定です。

これら観測所のうちで、明治 40 年（1907）から松江地方気象台開設の昭和 15 年（1940）まで観測を行った場所が、松江市の殿町にあった「物産陳列所」です。松江地方気象台の所蔵する「管内気象観測月表」に綴られた「気象報告」には、観測地として「物産陳列所」、観測者には「監守石田精之助」などの名前があり、物産陳列所の職員が観測にあたっていたことが分かります【写真 3】。また、日々観測が行われているのですが、中には「此日ハ他ノ用務ニ所持シ観測ヲ洩ラシケリ」などの記載もあり、主要業務に圧され観測に従事しきれなかった様子もうかがえます。

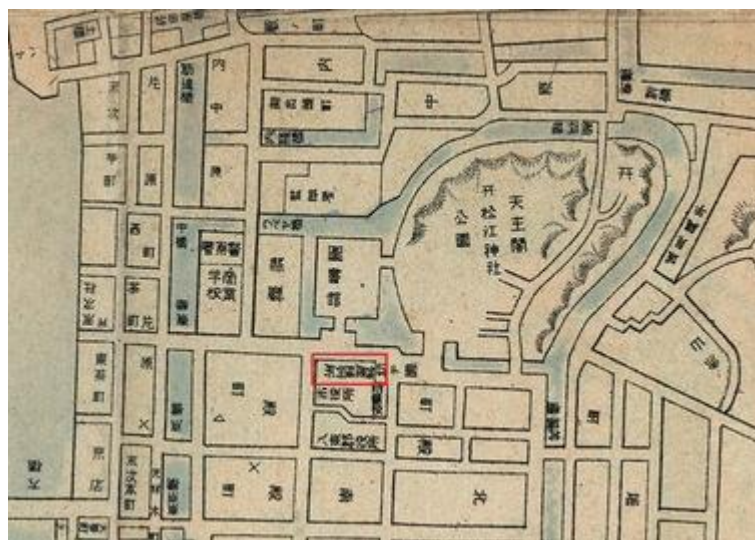
南	西	七	西	上	北	西	六	北	二	静	二	合	計	三	一
松江地方気象台 監守 石田 精之助 様															

【写真 3】明治 41 年 5 月気象報告（物産陳列所）同・観測者部分拡大図

この物産陳列所については、大正2年（1913）発行の『島根県物産陳列所報告』〔注1〕の「一、沿革」には、「本所は明治十三年五月の創立に係り、県内の物産を他に紹介するを以て目的とし、尚県外の物産を蒐集して参考に資せり、而して初、松江市殿町一番地をトシ、勸業展覧場の名称を以て会場せしが、同三十一年四月今の名称に改め、又委託販売品規則を設けて其の取扱をなし、同四十年以来、年々農商務省商品陳列館より参考品の貸与を得て一般の縦覧に供せり、同四十三年七月に至りて、現在の場所に移転し…（略）」とあります。ここから、物産陳列所が明治43年（1910）に移転をしていることが分かります。これはどのような経緯によるものなのでしょうか。

まず、最初に「勸業展覧場」として設立した場所ですが、明治39年（1906）の「松江市全図」（『島根県名勝誌』〔注2〕付図松江市立中央図書館所蔵）という絵図を見てみると、現在の島根県庁本庁舎のある場所の東向かいに「物産陳列所」の文字が見えます【写真4】。現在の島根県民会館の位置に当たりますが、これが創立した際の場所です。

また、明治44年（1911）の「松江市宅地等級概況図」（松江歴史館所蔵）を見ると、物産陳列所は現在の島根県庁分庁舎・第三分庁舎の位置にあることが分かります【写真5】。実は、この場所は二代目島根県庁舎のあった場所でした。



左：【写真4】「松江市全図」物産陳列所（島根県名勝誌付図）、右：【写真5】松江市宅地等級概況図（物産陳列所）

島根県庁舎については、初代の建物は明治5年（1872）に建設され、その後手狭になったことから、明治12年（1879）に二代目県庁舎を竣工、移転しています。さらに明治42年には三代目県庁舎が竣工し、その際、旧二代目県庁舎は島根県物産陳列所として転用されることになりました〔注3〕。前述の沿革のとおり、翌明治43年（1910）に旧島根県庁舎の位置に物産陳列所は機能を移転したようです【写真6】。



【写真6】「島根県物産陳列所」（2代目島根県庁）（個人蔵）

一方で、物産陳列所での気象観測が始まったのは明治40年（1907）ですから、ちょうど移転をする直前の時期であったことが分かります。観測をする場所が移転をすることには少し疑問が残るのですが、明治43年の気象報告には特に何も記されていません。観測者も物産陳列所の監守の名前が記され、特に変化は見られないようです。遠隔地への移転ではないため、観測そのものも同時に移ったのかもしれませんが。また、物産陳列所の西隣には、工業試験場ほか関連施設が附設されました。こうした施設との協力関係の元で観測が行われていた可能性もあります。

明治期から集積された膨大な観測記録は、長い期間をかけて分析され、現代の気象予報に活かされています。当時観測所の一つとして、物産陳列所の職員が業務の片手間に観測にあたり、時には十分に行えない時がありつつも、日々続けていた努力の結果は、現代に住む私たちの生活を支えていると言えるでしょう。

[注1] 国立国会図書館デジタルコレクション（請求番号特 107-341 島根県物産陳列所出版、大正3年（1914））

[注2] 奥原福市著、有田傳助発行『島根県名勝誌』（明治39年（1906））

[注3] 中野茂夫「近現代松江の官庁街形成史～官公署・文教施設の配置と県庁周辺整備計画に注目して～」（公益社団法人日本都市計画学会都市計画論文集 Vol.47No.3、2012年10月）

（史料編纂課／小山祥子／2018年7月4日記）